

負債構成と資本構成  
—銀行負債の再交渉に着目して—

富田信太郎・池田直史・辻 幸民

〈要旨〉

本稿では、トレードオフ理論に基づき、再交渉が可能な銀行負債と再交渉が不可能な社債とが利用できる場合に最適な負債構成・資本構成を決定するモデルを提示している。銀行負債は少数の貸し手に保有されているため再交渉が容易であり、モデルでは企業の業績が悪化した場合に、銀行は再交渉を行って利子を減免することができる。再交渉のベネフィットは、当事者である銀行負債に対して強く働くが、その一方、銀行負債の利用には追加的なコストがかかると考えられ、モデルではこの想定を取り込んで分析している。企業はこれらのトレードオフを考慮し、株式・銀行負債・社債の最適な構成を決定する。